

図書館だより



令和6年 6月号
一条中学校図書館

6月に入り、関東地方も直に梅雨入りを迎えますね。

「梅雨」という言葉は、梅の実が熟す季節であることからつけられたと考えられています。雨の日には、学校図書館で借りた本で読書はいかがですか。

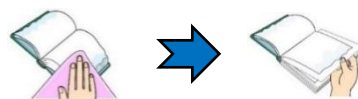
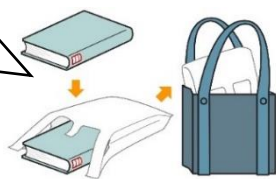
雨の日の本を持ち運ぶときの注意

雨の日の本を持ち運ぶときには、本をぬらさないように注意しましょう。本をビニール袋に入れてからバッグに入れるとぬれにくくなります。

学校の本はみんなが利用する本ですので、水ぬれなどにも気を付けて扱うようにしましょう。



バッグがぬれてしまうと、本にしみてしまうので、ビニール袋に入ると安心です。



万が一、本をぬらしてしまった場合、きれいな布で水をふき取った後に、ページに紙をはさんでおくと、乾きやすいです。

学校図書館オリエンテーション

5月22日（水）1年生を対象に、各学級1時間オリエンテーションを行いました。内容は学校図書館利用のきまり、本の分類（図書館の本の分類、請求記号、本の並び方）、調べ学習のポイント（調べ学習で使えるもの、図鑑と百科事典の使い方、記録の仕方、著作権など）、図書館クイズ、を行いました。

オリエンテーション終了後には、学校図書館内のようすや、本棚にどのような本が置いてあるのかを自由に探索する時間を設けました。「小説や物語が多くうれしい。」「小学校には無かった本がたくさんある。」という声も。早速読みたい本を見つけた人は、貸出上限まで本を借りる人の姿も見られました。



学校司書の話聞いた後、学習の振り返りとして、分かったことや気が付いたこと、これからの目標などをプリントに書いてもらいました。一部紹介します。

- ・図書館の本を大切に扱おうと思った。貸出期限を守りたい。
- ・ルールを守ってこれから使っていきたい。
- ・調べ学習でインターネットだけではなく、本や新聞でも調べてみようと思いました。
- ・新聞が置かれていることが分かったので、読んでいこうと思います。
- ・図書館クイズが楽しかった。
- ・百科事典、図鑑の使い方が分かったので調べ学習で生かしたい。
- ・本の分類は0～9に分かれていて、そのなかでも細かく分かれていることが分かった。
- ・本の分類について分からなかったところが詳しく分かった。
- ・著作権についてクイズなどでよく分かった。自分がつくったものも著作権があるとはじめて知った。
- ・小学校よりも本をたくさん借りられることや、貸出期限が長いことが分かった。
- ・小学校のときのルールと同じところがあった。これからも守りたい。

読書量や学校図書館で借りる本の冊数の目標、中学生になって挑戦したい読書のジャンルについて書いてくれた人もいました。





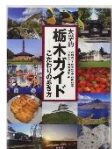
6月15日 栃木県民の日



とちぎ



6月15日は栃木県民の日です。栃木県のことを知り、関心を深めましょう。
 郷土（宇都宮）に関することは、総合的な学習の時間で各学年学習しますね。
 学校図書館の郷土資料コーナーには、本や冊子が集めてあります。また、県内の新しい情報を知りたいときには、県内情報が豊富な地方紙（下野新聞）も常備していますので、ぜひ活用してください。
 今回は、比較的新しく学校に入った栃木県や宇都宮に関する本を紹介します。



観光ガイドとは異なり、栃木のことをさらに深く知り、学びたい人向けの本です。読者層の想定は高校生ぐらいからなので、少々難易度が高いと感じるかもしれませんが、第1章「とちぎの自然と歴史」、第2章「とちぎの魅力」、第3章「これからのとちぎ」と3部構成になっており、各章ごとにトピックが細かく厳選されているため、読みやすく深い学びに繋がります。

『大学的 栃木ガイド こだわりの歩き方』松村啓子 ほか（昭和堂）



いちご



宇都宮の民話・伝説として、今も宇都宮市内で広く伝えられ親しまれている「黄ぶな伝説」は代表的な話ですが、一条地域学校園区やその周辺地区にも民話・伝説が数多く残っていることを知っていますか。この2冊の本には、みなさんが日頃過ごしている学校周辺に残る民話・伝説も載っているため、改めて地元の歴史文化への関心が深まります。

『うつのみやの民話』飯野ハツ卫（井上総合印刷）

『うつのみやの伝説』下野民話の会（随想舎）



ぎょうざ



栃木県在住の写真家が撮影した栃木県内の絶景を季節ごとに紹介しています。春夏秋冬それぞれの花や自然を主とした美しい景色の数々は、栃木県が自然豊かで、魅力ある県であることを再認識することでしょう。写真が大きく見ごたえがあり、絶景へのアクセスや旅のワンポイントなども載っています。

『とちぎの絶景』小杉国夫（下野新聞社）



大谷平和観音



栃木県出身の作家が書く栃木県が舞台の物語『ナカスイ！』シリーズでは、栃木県那須郡那珂川町にある栃木県立馬頭高等学校水産科がモデルになっています。宇都宮市の中学校に通っていた主人公鈴木さくらが、ドラマチックな青春を夢見て、栃木県立那珂川水産高校（通称ナカスイ）へ入学するという青春ストーリーです。2巻では、さくらや同級生も2年生へと進級します。

『ナカスイ！ 海なし県の水産高校』村崎なぎこ（祥伝社）

『ナカスイ！ 海なし県の海洋実習』村崎なぎこ（祥伝社）



山あげ祭



益子焼



『大谷石文化への誘い その歴史と魅力を探る』

宇都宮市大谷石文化推進協議会（随想舎）

『下野の雷さまをめぐる民俗』柏村祐司（随想舎）

『とちぎの化石図鑑』とちぎ化石図鑑編集委員会（随想舎）

など、ほかにも学校図書館に多数の関連本があります。



日光東照宮随陽門

